

文盛

特 別
子12
3656
17



712
3656
17.1



夫西方二千万位出幸くまは
 乃なるく一室も己方能疎乃國
 きせん群集の絲糸乃あり白く
 英と能法乃ゆは実も言くも小
 接方不接乃能子能り残るへき
 上
 福をを佛能法必を尋んぐ
 を能く為ふのり能切志あも

あきしりりなうりくめ
まじくを爰を志す事いりや

南無阿弥陀佛

つふおきか

ぬも毎目け縁ふよ悔はるあ

されハ志の夫とるるも何ふ

おことの安ん人乃るるもな

誰は向て何事成すも皆人

不審志あへりりおこもの

なを必染る人 三和 是におひも

よ〜ぬ你うあ本もわ〜ぬに

あま〜い〜るひか人なぬにひ

らま〜やあ必もあ〜らう

ふ染もさめたる上人乃は下向

ひ〜へり疎乃来迎かな終

さしははあなふ人な乃きく就
くへをうあわ了ふ衆人海

本よりわゑ乃あ年人乃忍るるすい
あけまきとも所をたすい人な
乃く海一近うよわてなを必衆
ん人 シテ ち一長井能新あ前
あまはは藤原乃宮我よ付まぬ

やるをよけれてくうんらあ
う新いあ家能付らたて乃必
毛軍物換い無益たおこも
必をおのりん シテ りやされい
あうそあまはははあなふ地あ
もく鬚髪をも洗き一とかなわ
されいそ桃心強目くるも

此あつわたり人よは幻乃しとて

見ゆると尸以 目 ぬいとも人よ

又くくり ミテト 志山末乃も物と成

又くくり ハナチニ 櫛の花よ死連なる

おひ末なる我とほらんぞよ

あきまき ハナチニ 実盛乃昔をす

流る物終人乃上ると思ひし

乃乃上成くる ハナチニ 一ききよぬ

おこも ハナチニ 実盛乃うけを果すと

ま ハナチニ 実盛の果実

なる、魂ハ實盛よあわなす

魄ハ ハナチニ 世よ ハナチニ 命 ハナチニ 心乃

圖浮 ハナチニ 世よ ハナチニ 二面 ハナチニ 縁業の程ハ

あ ハナチニ 浮 ハナチニ ひも ハナチニ 居 ハナチニ 了 ハナチニ 了 ハナチニ 藤 ハナチニ 屋 ハナチニ 終

池乃あゝ波も家となく 魚

わつて心乃園能 憂ともあ

うはいともあき 思ひを乃見

藤原のま葉乃雲乃霞きひく

人あともめろ假袖ふ取出くる

実盛り名をも 孫ふあま

なまの世はも取 してはあを

いさらうわてりとも種ハ藤原乃

池乃さよくあひゆと成て夫よ

くわく しゃあ時乃絲必

よそはあ琴をとふりんと

志の原能池乃逢乃法能水づく

源くう取む絲ふ乃空澄わくる

帛能袖製すわ及製よ玉さこも

池乃あゝ波も家となく 魚

わつて心乃園能 憂ともあ

うはいともあき 思ひを乃見

藤原のま葉乃雲乃霞きひく

人あともめろ假袖ふ取出くる

実盛り名をも 孫ふあま

なまの世はも取 してはあを

いさらうわてりとも種ハ藤原乃

池乃さよくあひゆと成て夫よ

くわく しゃあ時乃絲必

よそはあ琴をとふりんと

志の原能池乃逢乃法能水づく

源くう取む絲ふ乃空澄わくる

帛能袖製すわ及製よ玉さこも

よふ夫をこねのちけくゑん
のほらうを第ゆるしきさよ
埋其乃人志違ぬ方と志所め共
うろの池乃ツひうこき備羅
昔患乃救こをうへてたうを
竹くとも見ほよまぬあこわ
たう海しと善を傳人のこは

三十四

見もやもぎくたう上人乃
四らうふんるや家も踐里
香のひんひ米志乃き老武考
なまきせ可出たハ花やハなる
ようかひ強よ墨たな月お光
燃お影暗くぬよ家乃録
直密りくもへきふかひ乃

レテ
ニニトニニ上
ウウ

レテ

レテ
ニニトニニ上
ウウ

レテ
ニニトニニ上
ウウ

レテ
ニニトニニ上
ウウ

手塚於太良見流もいと末為殿乃
由まゝ人ふあわ中やう光盛さう
寄吳乃忠者とくむて顔とほそ
らん大將とく神のほくく勢も
あー又付あと思入いしーき乃
直垂をきこわたよのましく水々
煮まき共みふあひのくは強の板木

舞ふてはと中木為殿あ流いれ
たすけおれおあおの南宮盛あてや
あはらん志りくは髪髪お南髪
たうへあまのくろきあうぬあん
おまは口お次郎ハ見えくうの境
とておれくは口集りた
一月のくたなるくは流りくく

なるひてあふむらんやふ新
 別苗少くはくはうや実盛
 十ハ六十小解ていこを
 とき其殿直とあううひて先
 おせもおとあけあー又老
 とそ人しく小機く祇其あ口
 うるあーひせひ巻を墨うめ

又やき耐えすへ素より
 ろひーの海に深ては洗う
 流鏡らんとりあへ首
 清前をう流てあうわなるは池
 波乃鬼子臨るそみけ三とわも
 うけし流舟柳の糸お枝たき
 気舞しハ風新柳乃髪を巻流わ

こぼりきつて、波田若子髪を
洗つて、神の墨の流まはつて、本
白髪とが、わたり、くわき、子名を
情むら、た、い、れ、も、か、く、あ、う、さ、へ
け、き、や、あ、や、さ、や、と、し、え、あ
あ、は、な、を、う、流、志、々、あ、又、実、盛、の
録、に、直、垂、越、き、あ、も、私、な、ら、ぬ

乃、う、三、な、わ、実、盛、朝、を、あ、り、ま、さ
宗、盛、公、よ、う、や、う、あ、つ、へ、い、録、を
き、ま、し、う、へ、る、と、り、へ、は、本、文、あ、り
さ、も、も、わ、ま、國、の、越、あ、乃、考、よ、そ
い、ひ、り、を、年、法、然、よ、付、く、祇、て
武、義、乃、也、井、よ、居、位、は、ら、ま、う、は、わ
い、さ、は、度、水、國、よ、ま、う、わ、り、わ、て

下二二、三、
以りてて付宛仕承へし老及乃
思出見よるし一清免あまきと金
志りい赤地乃録能直密をくた
清りぬ 然い吉奇ももるる
業をふははりい録きや家よ
為ると人やるるるんと譲も
此本文のうろなわされい若乃

朱實臣いふしき乃たを
志望山よ翻志々乃実望いふを
小成乃巻よあま過まなう
うろ能必い末代よき明乃月能
換いし一懺悔指かるる中きん
きよやきんを能指かるる心の
あけ有きしうく濁を乃し一終ふ

三〇五

かよ うれ 心 の 備 乃 刃 ち
め くら 又 ち 小 末 乃 ち
く まん と なく 刃 一 成 色 塚 ぬ よ
通 へ け ら 新 一 毎 意 の 々 小 あり
は 兵 大 事 一 とな の 中
よ も え け ら ち 塚 乃 志 乃
光 盛 亦 亦 志 乃 志 乃

上代

上代

上代

上代

う け 備 け ち て 実 盛 と 押 進 了
く ち 所 を あり け ち 乃 志 乃
目 本 一 乃 備 志 乃 志 乃 志 乃
よ も て 鞍 乃 志 乃 志 乃 志 乃
鉄 乃 志 乃 志 乃 志 乃 志 乃
志 乃 志 乃 志 乃 志 乃 志 乃
志 乃 志 乃 志 乃 志 乃 志 乃
志 乃 志 乃 志 乃 志 乃 志 乃
志 乃 志 乃 志 乃 志 乃 志 乃



